

試用ノ上其才ヲ量リテ任用スルコトノ儀ニテ名  
稱ニ拘ハルハキモノニ有之ヲ爲ス身雇ノ者ト雖  
モ右ノ規束項ニ準據スルハキモノ事ト存  
以テ其ノ旨ヲ指シテ其ノ旨ニ相似ル也

沙抄ノ條

伺之通

同治六年一月十日

今般内達相成擧擧内規内制然不  
致廢之左及内質河所

第一

内規第三項准奏任内掛増給之ニ准テ下  
雅ニ技術ニ係ルモノハ例外ト有之者准奏  
任内掛ハ月俸ノ多少ニ拘奏任官ノ定年  
數ニ准シテ増給シ判任ニ准スル者ハ其月俸  
本官ノ等差年限ニ比較シテ増給スルヲ  
得ル義ナルヤ

第二

備名義ノ者ハ通省勅ニ從事セシメサル  
モノナリ可シト雖モ便且上程ニ定務ニ從事  
セシムルモノアリ然ル中ハ本官ニ進メ或ハ増給共

御用掛ノ例ニ據リ可然也

第三

技術ノ例外ト有之ハ擧學内規ニ全ク関係  
ナシト云フノ義ナルカ成ハ第一第二項ニ對シ例外  
タルノ義ナルヤ果シテ然ラハ技術ヲ以テ登用スル  
者悉ク卒業証ヲ所有スルニ非レハ其技倆ヲ  
試ムルニハ第五項ニ據リ當初總ニ御用掛ト  
ナシ然ル後存官ニ據學スルニキ順序ナルヤ  
當者大學校教授及助教ハ勿論技術  
ノ例ニ據リ可然也

第四

右者都合モ有之共向モ急御用掛者之後  
於也

明治三十二年一月十日

書記局長 安部知大書記官

井上内閣書記官長殿

明治十六年一月十七日



主管各議

内閣書記官

安川工部大書記官(回答案)

撰舉内規ノ中(少質問ノ趣致承知)

第一第二第四 總テ少員解ノ通

第三 技術者ノ撰舉進級ハ各廳ノ

内規ニ任ス

者及回答條也

本  
文  
官

明治十六年六月十日

明治十六年六月二日

内閣書記官

内閣書記官



本年一月工部書記官より「准奏任御用掛」月俸  
ノ多少ニ不拘奏任官ノ定年數ニ准テ増給ニ判任ニ  
准ズル者ハ其月俸本官ノ等差年限ニ比較シテ増給ス  
ルヲ得ル儀ナルヤ」ノ質問有之形節同上「見解ノ通  
ト回答せ處其後文部省より「准奏任御用掛増俸期  
程同出形節」本官ノ俸額ト差違アルモノハ増給ノ多

家ニ依リ彼是斟酌スルヲ得ト御指令有之就テハ最  
前工部省ノ回答改正ノ儀左ノ通圖書記官、照會  
シタル方此ルニシ

安川五郎右衛門尉、圖書記官、照會

本年一月達奉内規ノ儀自御覽問ノ節第一第二第四  
條ヲ御見解ノ通ト書答存置處右ノ内第一、左ノ通改  
正致シ且條中首出了承可方ノ也

明治十六年六月六日

第一本官ノ添類ト差違アリモノハ増給ノ多寡ニ依リ其年  
限ノ斟酌スルヲ得ル儀ト存收

心  
中一  
得  
心  
意  
丸  
心

本  
官  
長  
官  
ノ  
考  
究  
ヲ  
以

テ  
行  
フ  
ノ  
事  
ハ  
先  
考  
究  
ス  
ル  
ノ  
由

テ  
先  
考  
究  
ス  
ル  
ノ  
由

先  
考  
究  
ス  
ル  
ノ  
由

先  
考  
究  
ス  
ル  
ノ  
由